

「群馬県環境基本計画2021-2030」の刊行にあたって

近年、気候変動の影響等により災害が激甚化・頻発化し、令和元年東日本台風（台風第19号）や令和2年7月豪雨など、毎年のように多くの犠牲者や被害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界全体が大混乱に陥り、社会的にも経済的にも大きな打撃を受けています。

気候変動の要因とされる地球温暖化も、新型コロナウイルスの感染拡大の背景にある生態系の攪乱も、私たち人間の活動が地球環境に過度に負荷をかけたことが原因だと考えられます。



県では、2019（令和元）年12月、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2050年に向け、①自然災害による死者「ゼロ」、②温室効果ガス排出量「ゼロ」、③災害時の停電「ゼロ」を同時に実現するとともに、④プラスチックごみ「ゼロ」、⑤食品ロス「ゼロ」を合わせて達成することを目標とした「ぐんま5つのゼロ」を全国で初めて宣言し、その実現に取り組んでいます。

さらに、2020（令和2）年12月、20年後の群馬県の姿を見据えた「新・群馬県総合計画（ビジョン）」を策定し、「誰一人取り残さない自立分散型社会」の実現を目指すこととしました。

そして、社会経済情勢の変化に対応し、新たな環境行政を展開していくため、本県の環境の現状や県民の意識、これまで実施してきた各施策の実績や効果などを踏まえ、「新・群馬県総合計画」を環境面から推進する「群馬県環境基本計画2021-2030」を策定しました。

本計画では、「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」を2040年に向けた群馬県の環境の将来像とし、環境・経済・社会の課題を統合的に解決するSDGsの考え方に基づき、温暖化対策と経済成長を両立させて脱炭素・循環型社会を実現し、持続可能な自立分散型社会を目指します。

県では、この将来像を実現するため、県民の皆様と力を合わせて、全力で群馬県の未来を切り拓いて参りますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

2021年3月

群馬県知事

山本 一太